

目

次

口 絵

目 次

執筆者一覧

第一章 政治・行政

第一節 維新前後	1
一 版籍奉還と廢藩置県	1
第二節 行政の移り変わり	2
一 松本藩時代の四ヶ庄	2
二 松本県 筑摩県管下の神城・北山村	2
三 長野県管下の神城・北山村	4
四 連合戸長時代	5
五 町村制時代	6
一 村長 村会議員選挙	2
2 学校建築	3
3 郡制の廃止	5
4 普通選挙	6
六 昭和前期の行政	1
1 昭和前期	1
2 太平洋戦争と村政	2
	9

3 戰後の復興

七 神城・北山村の合併と白馬村の誕生

1 神城 北山村の合併 2 白馬村の発足

3 新しい村づくり 4 白馬中学校の建設

八 観光立村を目指して

1 観光開発の推進 2 白馬高校の県立移管

3 国の直轄砂防指定 4 冬季オリンピック立候補

5 財政の建て直し

九 國際山岳觀光都市へ向けて

1 上水道の整備 2 國道の改良

3 農業基盤と河川整備 4 國際山岳觀光都市へ

十 財政規模の推移

1 明治時代 2 大正時代

3 昭和時代（前期） 4 昭和時代（後期）

5 平成時代

十一 冬季オリンピックの招致と開催

1 冬季オリンピックの招致

2 オリンピック パラリンピックの開催

第三節 世相 生活様式の移り変わり	37
一 時代の流れ	37
二 姓を名乗る	45
三 村名の由来	45

四 報道——「信飛新聞」からテレビまで……… 46

五年中行事と葬儀…………… 47

六 結いと無尽むじん…………… 49

七 燃料革命…………… 50

八 住まい（建築様式）の移り変わり…………… 51

第四節 過疎化と新興地…………… 52

一 過疎化と過疎地…………… 52

1 白馬村の過疎化の現状…………… 52

2 過疎化の時代背景…………… 58

3 白馬村の過疎地域…………… 58

二 新興地…………… 58

1 白馬町…………… 58

2 森上…………… 58

3 瑞穂…………… 58

4 みそら野…………… 58

5 エコーランド…………… 58

6 和田野…………… 58

7 山麓…………… 58

8 どんぐり…………… 58

9 落倉…………… 58

10 名鉄…………… 58

11 飯田（五竜とおみ）…………… 58

第二章 産業経済

第一節 農業…………… 80

一 一粒の米のために——繁忙の明け暮れ…………… 80

二 年表に見る農業事情…………… 81

三 職業の移り変わり…………… 84

四 耕地面積（水田・畑・桑園）と減反の推移…………… 87

五 麻栽培から養蚕へ…………… 90

六 煙作…………… 95

1 蔬菜類…………… 95
2 たばこ…………… 95

七 牛馬のこと…………… 97

1 牛馬とのかかわりと家畜数の推移…………… 97
2 馬頭観音と大日如来…………… 97

八 開拓の歴史と圃場整備事業…………… 100

1 神城南部地区開拓の歴史…………… 100

2 ほ場整備事業（1）神城地区（2）飯森地区…………… 100

九 農具の機械化…………… 105

九 農具の機械化（1）神城地区（2）飯森地区…………… 105

九 農具の機械化（1）神城地区（2）飯森地区…………… 105

九 農具の機械化（1）神城地区（2）飯森地区…………… 105

十 藦仕事…………… 110

十一 堤の開削…………… 111

1 沢渡耕地堰…………… 111

2 山崎堰…………… 111

3 矢崎堰…………… 111

4 源太郎堰…………… 111

5 高見堰…………… 111

6 山の神堰…………… 111

7 新田横堰…………… 111

8 青鬼堰…………… 111

9 切久保堰…………… 111

10 西山堰…………… 111

11 立ノ間堰…………… 111

12 その他の堰…………… 111

第二節 林業

一 自給生活の源としての山林・原野

二 製炭（炭焼き）

三 振わなくなつた林業

第五節 観光業

一 明治 大正 昭和前期の観光

二 戰後の観光発展

第三節 商工業

119

一 商業経済の推移と発展

1 明治初期の商業 2 新道開削と商業

3 大正 昭和前期の商業 4 観光産業の成長

二 商工会 131

三 金融業 132

第四節 工鉱業

一 振わなかつた工業生産

1 酒造業 2 製材業 134

3 骨材生産業

二 鉱山

1 白馬銅山

2 大黒鉱山 (1) 発見と採鉱準備

(2) 採鉱と事業の本格化 (3) 牛道の完成と閉山

3 鬼無里炭鉱 (1) 発見と事業化の願い

(2) 素道の完成と社長の急死

三 その他の工業

141

第三章 交通・運輸・通信

第一節 交通と運輸の歩み

一 県道（現国道一四八号線）のできるまで

二 県道の開通——近代化へのあけぼの

三 道路元標と各地への里程

四 その他の古い道と新しい道

1 古い道 2 新しい道

五 木橋からコンクリート橋へ

六 身太橋と吊り橋

七 交通事故から交通安全へ

第二節 大糸線の開通

136

134

134

132

131

第三節 商工業

122 122 121 119 116

一 大糸南線から大糸線へ

二 大糸線の乗降客の変遷

161 160 160 159 157 156

3

第四節 幻の善白鉄道

一 長野～鬼無里～白馬を結ぶ路線を

163

第五節 輸

人肩馬背から馬車の時代へ

164

第六節 貨物列車からトラック輸送へ

貨物列車からトラック輸送へ

165

第七節 除雪体制の充実と大型動力除雪車の活動

除雪体制の充実と大型動力除雪車の活動

165

第六節 郵便

一 新式郵便制度の誕生

新式郵便制度の誕生

167

二 郵便事業の歩み

郵便事業の歩み

167

三 村内郵便局の沿革と業務

村内郵便局の沿革と業務

170

四 創業時の局の変遷

創業時の局の変遷

167

五 郵便輸送の変遷

郵便輸送の変遷

167

六 その他

その他

176

第七節 電信・電話

一 電信事業の歩み

電信事業の歩み

176

二 電話の普及

電話の普及

176

三 有線放送と無線放送

有線放送

178

第四章 軍事・司法

第一節 戰争と従軍

一 徵兵制以前

徴兵制以前

183

二 徵兵制

徴兵制

183

三 西南の役への従軍

西南の役への従軍

185

四 日清戦争への従軍

日清戦争への従軍

185

五 日露戦争への従軍

日露戦争への従軍

186

六 奉天大会戦（陸軍記念日）

奉天大会戦（陸軍記念日）

186

七 日本海海戦（海軍記念日）

日本海海戦（海軍記念日）

186

八 忠魂碑と奉安殿

忠魂碑と奉安殿

189

九 日中戦争への従軍

日中戦争への従軍

190

一 日中戦争のおこり（盧溝橋事件）

日中戦争のおこり（盧溝橋事件）

189

二 日中戦争の本格化

日中戦争の本格化

190

三 南京の悪夢（世に言う南京大虐殺）

南京の悪夢（世に言う南京大虐殺）

193

四 従軍看護婦

従軍看護婦

193

五 従軍看護婦

従軍看護婦

193

六 在郷軍人会と爱国婦人会

在郷軍人会と爱国婦人会

194

七 帝国在郷軍人会

帝国在郷軍人会

194

八 大日本国防婦人会

大日本国防婦人会

194

九 無線放送（防災行政無線システム）

無線放送（防災行政無線システム）

194

十 満州移民と義勇軍

十一 軍事訓練	196
十二 青年学校	197
十三 出征兵士の送迎	198
十四 戦没者の葬儀	198
十五 学徒動員と勤労奉仕	199
十六 学童疎開	199
十七 戰時下での生活	200
十八 戰没者名簿	201
○日章旗一四十年ぶりで妻の手に	202
第二節 司 法	205
一 法務局	205
二 人權擁護委員会	206
三 保護司	206
四 更生保護婦人会	207
第三節 警 察	208
一 警察の沿革	208
二 警察の任務	209

第一節 災 害

一 災害の歩み

二 大水と火事

1 大水

2 火事

三 災害はなぜ少なくなったのか

第二節 消 防

一 火消しから消防組・警防団 消防団へ

二 消防の組織と任務

三 広域消防の時代へ

第六章 衛生・保健・保険・福祉・医療

第一節 衛 生

第二節 保 健

第三節 社会保障・保険・福祉

一 社会保険

1 医療保険 (1) 国民健康保険 (2) 健康保険

(3) 共済組合保険 (4) 日雇労働者健康保険

(5) 労働者災害保障保険 (6) その他

2 国民年金保険

3 厚生年金保険

4 失業保険

5 恩給年金

二 公的扶助（生活保護）

三 社会福祉

○共同募金とそのほかの募金

○心配事相談

（1）生活保護法

（2）児童福祉

（3）身体障害者福祉

（4）精神薄弱者福祉

（5）老人福祉

（6）母子および寡婦福祉

第四節 医療

一 病院 医師

二 歯科医療 歯科医師

三 あん摩指圧師 鍼灸師 柔道整復師

四 獣医師

第五節 環境衛生

一 明治から昭和四十年ころまでの環境衛生

二 環境衛生への意識の高まりと時代の要請

275 275

275

272

270

269

263

261

第六節 上下水道

一 上水道普及までの経過

二 上下水道敷設の歩み

三 下水道敷設工事へ着手

第七節 社会福祉と社会保障

一 福祉事業の充実

1 白馬村社会福祉協議会設立

2 白馬村社会福祉大会

3 共同作業所の開設

4 白馬村健康づくり推進協議会の活動

5 白馬村民生児童委員会の活動

二 広域福祉

1 社会福祉法人 大北社会福祉事業協会

2 施設別の概要

3 北部地区特別養護老人ホーム新築および整備計画

三 国民健康保険運営と保険活動

四 ボランティア活動

第七章 教育・文化・スポーツ

第一節 草創期の教育

299

294

292

第二節 幼児教育

一 幼児教育のはじまり

301

二 白馬村の幼児教育と保育所（園）

301

三 保育計画と行事予定

304

第三節 小学校教育

306

一 神城学校の沿革の大要

306

1 神城学校沿革の大要（年譜）

306

二 北城学校の沿革の大要

313

1 北城学校沿革の大要（年譜）

313

三 佐野学校の開校と佐東明空

319

四 古城（塩嶋 陽徳）学校

320

五 神城学校 神城尋常小学校から神城尋常高等小学

321

六 北城学校 北城尋常小学校から北城尋常高等小学

321

七 「教育勅語 御真影 修身教育」下の教育
八 戰時体制下の教育と国民学校
九 戰争の激化と学童疎開

322

(1) 縁故先疎開学童受入状況ニ関スル調査
(2) 疎開記 (3) 疎開兒童を迎えたころ

322

九 戰争の激化と学童疎開

322

(1) 縁故先疎開学童受入状況ニ関スル調査
(2) 疎開記 (3) 疎開兒童を迎えたころ

326 323 322

第四節 中学校教育

351

一 白馬中学校沿革の大要

351

二 新制中学校の誕生と戦後の教育事情

351

三 白馬中学校の建設と開校

351

十 戰後の混迷時代の教育

330

十一 神城 北城村の合併と白馬南 北小学校の誕生

332

十二 分教場の歩み

333

(1) 神城地区 (2) 北城地区

330

(3) 飯森派出所（分教場）日誌から

330

(4) 嶺方分校の思い出 (5) 野平分校の思い出

330

(6) 戸合分校の思い出

330

十三 学校行事から

340

1 運動会 (1) 村内の各地を回って行われた運動会

340

2 三校連合運動会 (3) 中部小学校連合運動会

340

3 遠足と修学旅行 (1) 神城小学校の記録から

340

4 青木湖畔での運動会

340

3 白馬登山 (4) スキー

340

十四 創立百周年を迎える

349

十五 入学式 卒業式にみる時代の移り変わり

349

○歴代校長

349

17

1 創設期に学ぶもの 2 山を冒瀆しないように
3 伝統の礎が固まる

四 白馬の中学校三十周年記念事業	362
五 白馬中学校の全面改築	364
○歴代校長	
第五節 高等学校教育	366
一 白馬高等学校沿革の大要	366
二 定時制高校として出発、草創期の志	368
三 輝かしいスキーの業績	371
四 組合立（定時制）から県立高校（全日制）へ	373
○歴代校長	
第六節 青年教育	374
一 若衆（若者組）	374
二 少年団とその活動	375
三 青年団とその活動	375
一 青年団の創立	375
2 大正 昭和前期の活動	375
3 戦後の青年団活動	379
四 青年学校	380
五 実業補習学校など	
1 年表に見る歩み	
2 人材育成への投資	

第七節 教育行政機関

一 教育委員会	381
1 教育委員会制度の発足 2 公選制から任命制へ	381
3 白馬村教育委員会がすすめてきた主な事業	
(1) 白馬中学校の建設	
(2) 分校の廃止と小学校名の改称	
(3) 国民体育大会冬季大会の開催	
(4) 全国中学生スキー大会の開催	
(5) 長野県市町村教育委員会大会の開催	
(6) 全国高等学校スキー大会の開催	
(7) 第四回国民体育大会スキー競技会の開催	
(8) 国際映画映像祭の開催	
(9) 白馬中学校の全面改築	
(10) 青少年育成	

三 文化財審議委員会

二 社会教育委員会	388
1 社会教育委員制度の発足	
2 社会教育委員の構成	
3 社会教育委員の職務	
4 白馬村における社会教育委員の活動状況	

1 文化財と天然記念物への取り組みの歩み

2 文化財保護委員会の発足

3 審議委員会の活動と環境アセスメント

4 白馬村指定文化財一覧

第十節 文化活動

一 俚謡と踊り

- 1 尾花踊り 2 地搗き唄
412

二 白挽き唄

- 3 白挽き唄 4 盆唄
412

三 子守唄

- 5 子守唄 6 白馬小唄
412

四 山岳の唄

- 7 山岳の唄
412

五 子どもと遊び

- 1 遊び唄 (1) 手まり唄 (2) お手玉唄
(3) 繩とび唄 (4) 鬼遊びの唄
412

六 遊び方

- 2 遊び方
412

七 民話と伝説

八 白馬村歴史民俗資料館

- 1 ふるさと文化の拠点として
(1) 白馬村歴史民俗資料館の誕生 (2) 復元民家
(3) 白馬石仏公園
412

九 青年・婦人・文芸・芸術・社会の活動

十 青年による活動

- 1 青年による活動 2 公民館の活動
412

十一 体育・スポーツ活動

- 3 体育・スポーツ活動 4 婦人会の活動
423

十二 生活物資の共同購入と生活改善運動

- (1) 多方面にわたる支援活動 (3) 会員数の変遷
423

十三 文芸活動

- (1) 白馬村における学芸のおこり
(2) 俳句 (3) 短歌
423

十四 老人クラブ

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

十五 図書館

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

十六 公民館活動の現状

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

十七 成人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

十八 婦人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

十九 品評会と文化祭

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十 公民館活動の現状

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十一 品評会と文化祭

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十二 成人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十三 婦人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十四 品評会と文化祭

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十五 公民館活動の現状

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十六 品評会と文化祭

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十七 成人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十八 婦人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

二十九 品評会と文化祭

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

三十 公民館活動の現状

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

三十一 品評会と文化祭

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

三十二 成人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

三十三 婦人学級

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

三十四 品評会と文化祭

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

三十五 単位クラブの現状

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

三十六 「ふるさと白馬」の出版

- 1 老人クラブの歩み 2 老人クラブの活動
409 408

6 藝術活動 (1) 音楽 (2) 美術 (3) 木彫

7 社会活動

8 文学碑

5 グリーンスポーツ施設

6 北部農業者トレーニングセンター

7 南部農業者トレーニングセンター

8 BG白馬海洋センター

9 スポーツアリーナ

10 その他

第十一節 スポーツ

- | | |
|------------|-----|
| 一 相撲 | 436 |
| 二 野球 | 436 |
| 三 スキー | 437 |
| 四 その他のスポーツ | 437 |

1 陸上競技

2 庭球

3 バレーボール

4 ソフトボール

5 ゲートボール

6 マレットゴルフ

第十二節 社会体育の組織と施設

- | | |
|---------------------------|-----|
| 一 体育協会 | 446 |
| 二 体育指導員とスポーツ指導員 | 446 |
| 三 ジュニアスポーツの振興 | 447 |
| 1 スポーツ少年団 (1) 剣道 (2) サッカー | 448 |
| 2 ジュニアスキー | 448 |
| 3 白馬少年硬式野球 | 448 |
| 4 スキー協会とスキー学校 | 452 |
| 五 体育施設 | 452 |
| 1 スノーハープ | 453 |
| 2 ウイングアリーナ | 453 |
| 3 北部グラウンド | 453 |
| 4 南部グラウンド | 453 |

第八章 宗教

第一節 神道と神社

一 神仏分離令と神葬祭

二 社格の指定と合祀の問題

三 白馬村の神社

1 秋葉社

2 稲荷社

3 御嶽様

4 熊野権現

5 荒神様

6 蚕玉様

7 十二社

8 十郎様

9 白鬚大明神

10 城神様

11 水神社

12 諏訪社

13 大天白社

14 たろっこ様

15 津島社

16 戸隠社

17 白山社

18 八幡社

19 富士浅間社

20 三峯社

四 神道思想の移り変わり

第二節 ムラの人と生活の移り変わり

一 昭和二十年を境として

第二節 寺院と堂宇

492 494 476

一寺院

480 480 480

- 1 示現山長谷寺
2 祥雲山貞麟寺
3 玄光山東徳寺
4 福聚山真宗寺
5 西光寺

二堂宇

482 482 482

- 1 地域とお堂
2 白馬村の堂宇一覧表

第三節 その他の宗教

489 489 489

三農業

495 495 495

- 1 麻栽培と養蚕の衰減
2 牛馬から農機具 自動車へ
3 手作り道具
4 米の多収穫と減反政策
5 湿田から乾田化 耕地整理へ

第九章 民俗

第一節 『白馬村の民俗』の内容

490 490 490

四生活

498 498 498

- 1 生活空間の広がり
2 勤め人が多くなった
3 鬼無里村との交流が希薄になつた

- 4 「歩く」の今昔
5 「衣」について
6 「食」について
7 「住」について

- 8 いろいろ文化と燃料革命
9 昔の人は寒さに強かつた
10 「手作り」に学ぶもの

- 11 救荒食

- 第五章 雪と生活

- 第六章 白馬村における野兎狩り

二ムラの形態

492 492 492

一過疎化の進行と山村の崩壊

494 494 494

二平地志向と新興地

492 492 492

三観光産業の発展

492 492 492

四地名の変更

492 492 492

五古い道と新しい道

492 492 492

六湧水が少なくなった

492 492 492

一第一章 年中行事

492 492 492

二第二章 人の一生

492 492 492

三第三章 信仰

492 492 492

四第四章 動植物の利用

492 492 492

五第五章 雪と生活

492 492 492

第六章 白馬村における野兎狩り

492 492 492

第七章 救荒食

492 492 492

12 結い（エエ エエツコ） 13 紙漉き

14 方言と共通語

五 婚礼と葬式

1 婚礼 (1) 式場の移り変わり

(2) 式は夜から昼に (3) 神前結婚はなかった

2 葬式 (1) 葬儀場 (2) 土葬から火葬へ

3 念仏信仰 4 「講」の衰退

六 年中行事

七 芸 能

1 芝居今昔 2 踊りと民謡

3 笛と太鼓

509 509

写真・資料の提供者と協力者

白馬村誌編纂委員会

参考文献

白馬の明日をも語るために——あとがきにかえて——

（付・地図）

沢名、社寺、埋文遺跡、指定文化財、城址、名勝など

年 表（別冊）

4 平安 鎌倉 南北朝時代 5 室町時代

6 安土 桃山時代

7 江戸時代

8 明治時代（前期）

10 平成時代

12 昭和時代（後期）

9 大正時代

11 昭和時代（後期）

13 紙漉き

14 方言と共通語

15 婚礼と葬式

16 写真・資料の提供者と協力者

17 白馬の明日をも語るために——あとがきにかえて——

18 （付・地図）

19 参考文献

20 白馬の明日をも語るために——あとがきにかえて——

21 （付・地図）

22 参考文献

23 白馬の明日をも語るために——あとがきにかえて——

24 （付・地図）

1 地質時代

2 原始 古代

3 飛鳥 奈良時代